

201001007A

□

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

医療における情報活用を行う上での
適切な疾病分類に関する研究
平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 今村 知明
(奈良県立医科大学 健康政策医学講座)

平成23 (2011) 年3月

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))

医療における情報活用を行う上での
適切な疾病分類に関する研究
平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 今村 知明
(奈良県立医科大学 健康政策医学講座)

平成23(2011)年3月

【正誤表】

医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類に関する研究
平成 22 年度 総括・分担研究報告書

ページ	誤	正
2-11	3. 参加者（敬称略） （1）内科 TAG 検討委員会委員：	3. 参加者（敬称略） （1）腫瘍 TAG 検討委員会委員：

目 次

I. 総括研究報告書

医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類に関する研究	1-1
今村 知明	

II. 分担研究報告書

ICD 改訂作業における構造変更の(α ドラフト)の作成に関する研究	1-15
小川 俊夫	

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	1-21
-------------------------------	------

IV. 研究成果の刊行物	1-23
------------------------	------

資 料

国内内科TAG検討会・名簿	2-1
国内腫瘍TAG検討会・名簿	2-2

会議議事録	2-3
-----------------	-----

α ドラフト	2-45
-------------------------	------

- 循環器
- 内分泌
- 消化器
- 血液
- 肝・胆・膵
- 腎臓
- 呼吸器
- リウマチ

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）
総括研究報告書

医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類
に関する研究

研究代表者 今村 知明（奈良県立医科大学健康政策医学講座教授）

研究要旨

本研究は、ICD-11 をわが国としてより適切なものとするべく、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめ、WHO へのわが国の対応に資する基礎資料を作成することを目的として実施した。

今年度は国内内科 TAG 検討会および国内腫瘍 TAG 検討会を開催して委員間で様々な議論を行うとともに、iCAT の開発状況など ICD 改訂に向けた WHO の最新動向を共有した。また、WHO-FIC 等の国際会議に研究分担者らが出席し、改訂の最新状況を把握する中で、日本から構造変更の提案作成に際して積極的に意見発信を行うなど、大きな成果を上げた。昨年度に引き続き ICD 改訂における日本の国際的なプレゼンス向上については概ね目標を達成したといえる。

2011 年 5 月の β フェーズへの移行を控え、改訂案の詰めの作業が進められており、各国とも協調しながら準備を進める必要がある。

研究分担者

菅野 健太郎

自治医科大学消化器内科教授

落合 和徳

東京慈恵会医科大学付属病院産婦人科
教授

飯野 靖彦

日本医科大学内科（神経・腎臓・膠原
病リウマチ部門）教授

島津 章

国立病院機構京都医療センター臨床研
究センター長

中谷 純

東京医科歯科大学情報科学センター准
教授

小川 俊夫

奈良県立医科大学健康政策医学講座
助教

研究協力者

佐野 友美

奈良県立医科大学健康政策医学講座

A. 研究目的

ICD（国際疾病分類）は、死亡統計のみならず、患者調査、医療保険制度（DPC等）、診療情報管理等、広く医療情報全般において活用される重要な分類体系である。しかし、現在のバージョン（ICD-10）は1989年に策定されたものであり、その後の医療技術やIT技術の進歩等を踏まえ、現状に即した新たなバージョンへの改訂が望まれていた。

そこでWHOでは、2007年に現状のICD-10からICD-11への改訂に向けたプロセスを開始した。具体的には、WHO国際分類ファミリー（WHO-FIC:WHO Family of International Classification）ネットワークの下に改訂運営会議（RSG: Revision Steering Group）を設置し、各分野別専門部会（TAG: Topical Advisory Group）、具体的作業を行う部門としてのワーキンググループ（WG: Working Group）を設置した（図表1）。

今回のICD改訂において、わが国より内科TAG議長が任命されるという重要な立場となったため、ICD改訂にあたり、わが国の医療の実態を踏まえた、より適切な医療情報を将来的に確保するため、WHOの改訂動向を注視し、内科分野では議論をリードし、意見提示を行う必要がある。そのためには、関係者間での意見集約を行いながら、わが国に適した改訂案を提示していくことが重要である。

そのため、平成20年度の本研究では国内での改訂に対する意見をまとめる場として国内内科TAG検討会を設置し、各専門学会、行政（厚生労働省）等の連携により活動を行った。各専門学会から選出された検討委員の間で、疾病分類やオントロジー等についての共通理解を得るため、当該分野に関する最新の研究動向に

ついて医療情報学専門家から検討会の中で情報収集を行い、検討委員間で当該分野の最新の情報共有を図った。

平成21年度は、国内内科TAG検討会において積極的に議論、意見集約を行った。また、WHO-FIC、RSG、iCAMP等国際会議にも出席し、改訂に向けた各国の最新状況を把握しつつ、日本から積極的に提案を行い、大きな成果を上げてきたところである。

平成22年度の本研究では、国内内科TAG検討会に加えて腫瘍分野の意見も集約するため、国内腫瘍TAG検討会を設置した。両検討会では昨年度と同様に、各専門学会、行政（厚生労働省）等の連携により活動を行った。

今年度は特に検討会委員が国内の各専門学会の意見を取りまとめ、国際内科TAGの各WGにおけるICD-11の α ドラフト（構造変更の提案）作成において積極的に意見発信を実施し、その作成に大いに貢献した。さらに、 α ドラフトを効率よく作成するための各種調整を実施した。

本研究は、昨年度と同様にICD-11がわが国にとってより適切な分類体系となるよう国内外の意見を収集し、改訂に向けた医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類を取りまとめること、さらにわが国としてWHOの検討の場で行うべき対応に資することを目的として実施した。

B. 研究方法

1. 研究の全体像

本研究は、専門的な見地から分類に関する問題点について把握を行い、現存するエビデンスを収集したうえで体系的なレビューを実施し、それを元に分類の改

善すべき点について提案を作成するというプロセスで展開した。そのため、第一線の専門家が研究に参画して最新の知見を収集し、必要に応じて調査や分析を行えるように会議体を組織した。同時に提案に関連するWHOの動向についても把握すると共に、積極的な対外情報発信を行った。

本研究においては、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類の構築を、i) 問題点の抽出、ii) 課題の整理、iii) 改善案の提示、iv) WHOの動向の把握の4つのサイクルを回すこととした(図表2)。

今年度は、内科系領域や腫瘍系領域におけるICD改訂に際しての問題点や課題を洗い出すと共に、研究から判断された必要性に応じ、検討内容の充実を目指すものとした。さらに、国内の各学会の意見を取りまとめ、ICD-11の α ドラフト(構造変更の提案)について積極的に意見発信を行う他、実際の α ドラフト作成についても積極的に関与した。これらは、国内内科TAG検討会、および今年度に新たに組織された国内腫瘍TAG検討会における議論を踏まえて実施した。

以下にそれぞれの具体的な作業内容を示す。

○問題点の抽出

適切な疾病分類を検討するため現行のICDを分析し、その問題点の抽出を行った。ICDのユーザーとして、行政関係者及び医療関係者を据え、広く情報の収集を行った。また、改訂作業の実施ツール(iCAT)に入力された情報を整理し、ICD改訂作業の問題点を抽出した。

○課題の整理及び改善案の提示

上記で抽出された問題点を分析し整理

したうえで、内科分野において構造変更案を提示した。さらに重複・欠損領域の処理方法や、オントロジー概念のICDへの利用などについて検討を実施した。

○WHOの動向の把握

WHOの動向については、行政機関と連携を密にし、WHOにおけるICD改訂に関する関連情報の収集を行い、収集した情報の発信と、分析を行った。

2. 国内内科TAG検討会の開催

本研究では、昨年度に引き続き、国内での改訂に対する意見をまとめる場として、国内内科TAG検討会を設置し、定期的な検討会議を開催してICD-10の問題点抽出・課題整理、ICD改訂ツールであるiCATの概要、改訂に向けた集中作業であるiCAMPの動向などについて検討や情報共有を行った。国内内科TAG検討会のとりまとめは、研究分担者でありWHO内科TAG検討会の議長でもある菅野自治医科大学教授が実施した。

以下は、国内内科TAG検討会メンバーとして、意見集約に参加した学会である。

- ・ 日本内科学会
- ・ 日本消化器学会
- ・ 日本呼吸器学会
- ・ 日本腎臓学会
- ・ 日本内分泌学会
- ・ 日本糖尿病学会
- ・ 日本血液学会
- ・ 日本循環器学会
- ・ 日本神経学会
- ・ 日本リウマチ学会
- ・ 日本医療情報学会
- ・ 日本診療録管理学会

今年度の検討会は計2回実施した。以

下に日程を示す。

第1回：日時 平成22年11月8日

場所 日内会館会議室

第2回：日時 平成23年3月7日

場所 日内会館会議室

3. 国内腫瘍TAG検討会の開催

昨年度に引き続き、腫瘍分野における課題の抽出や改訂への意見のとりまとめの場として、国内腫瘍TAG検討会を設置した。とりまとめは、研究分担者の落合東京慈恵会医科大学教授が務め、各専門学会、行政（厚生労働省）等の連携により活動を行った。

以下は、国内腫瘍TAG検討会メンバーとして、意見集約に参加した学会である。

- ・ 日本眼科学会
- ・ 日本癌治療学会
- ・ 日本外科学会
- ・ 日本血液学会
- ・ 日本口腔科学会
- ・ 日本呼吸器学会
- ・ 日本産科婦人科学会
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会
- ・ 日本消化器病学会
- ・ 日本小児科学会
- ・ 日本整形外科学会
- ・ 日本内科学会
- ・ 日本内分泌学会
- ・ 日本脳神経外科学会
- ・ 日本泌尿器科学会
- ・ 日本皮膚科学会
- ・ 日本病理学会

今年度の検討会は以下の日程で実施した。

日時 平成22年11月24日

場所 日内会館会議室

4. 関連する国際会議への出席

国内内科TAG検討会において議論した結果を、関連の国際会議において報告し、ICD改訂に向けた議論を行った。

今年度の国際会議への参加は以下のとおりである。

①WHO 内科 TAG 対面会議

日時：平成22年4月7日～8日

場所：日本国東京

②WHO 腫瘍 TAG 対面会議

日時：平成22年9月13日～14日

場所：フランス国リヨン

③iCAMP2

日時：平成22年9月27日～10月1日

場所：スイス国ジュネーブ

④WHO 改訂運営委員会 (RSG)

日時：平成22年9月27日～10月1日

場所：スイス国ジュネーブ

⑤WHO 内科 TAG マネージングエディタ対面会議

日時：平成22年12月8日～10日

場所：日本国東京

5. 内科TAG電話会議への参加

内科TAGにおける以下の電話会議に参加し、情報収集と発信を実施した。

第1回電話会議

日時：平成22年9月15日

第2回電話会議

日時：平成22年9月24日

第3回電話会議

日時：平成23年1月17日

第4回電話会議

日時：平成23年2月21日

第5回電話会議

日時：平成23年2月22日

(倫理面への配慮)

本研究においては、疾病分類の分析・検討が研究主体となるため、倫理面への配慮が必要となる事項はない。

C. 研究結果

1. 国内内科TAG検討会における議論

今年度は検討会を2回開催し、ICD改訂に係る問題点等を議論するとともに、具体的なICD改訂に向けた作業、および進捗状況の共有等を行った。

各回の具体的な検討内容を以下に示す。

1) 第1回国内内科TAG検討会

平成22年11月8日に実施された検討会の内容は以下の通りである。

①iCAMP2の報告について

2010年9月27日から10月1日にWHO本部で開催されたiCAMP2について厚生労働省より報告が行われた。

2010年5月に発表された α ドラフトについては、あくまで未完成であると報告されたほか、iCATに追加された機能について説明がなされ、ICD全体、分野別の作業進捗状況が報告された。

α ドラフトの完成度は、iCAMP開催時点では10%程度と推定されたが、WHOによれば β ドラフトへの移行予定は2011年5月で変更はなく、完成に向けて引き続き各TAGでの作業、TAG間での調整を行っていくという方針を確認した。

②内科TAGにおける検討分野について

iCAMPでのWHO内科TAGにおける活動について、菅野部会長、興梠国際WG協力員により説明がなされた。

まず、各TAG作業進捗状況について報

告があった。TAGにより作業の進捗状況に違いはあるものの、作業はどのTAGでも進行していると報告された。

また、各TAG間での重複領域については、TAG間、WG間で調整する方針とのものであり、内科TAGの各WGとRare Disease TAGをはじめとした各TAG間で調整を行う必要がある。なお、Neurology TAG、Dermatology TAGなど幾つかのTAGから循環器との重複する領域について協働の申し入れがあった。

WHO内科TAGの各WGには、小児科医が一人ずつ配置されていたが、Pediatrics TAGが立ち上がったことにより、小児科医は内科と小児科の両TAGに所属することになった。

ICD改訂のプラットフォームであるiCATについては、WHOとしては改訂作業にiCATを全面的に使用しているが、その開発の遅れなどから、実際は電話会議やメール等でTAG間の調整をしているのが実情との報告があった。

③各WGでの検討について

消化器WGでは2010年4月に α ドラフトをWHOへ提出したが、iCAT上で反映されていないことが判明した。そのため、WHOに対して抗議したところ謝罪があり、マネージングエディタがiCATに直接入力することとなった。

肝・胆・膵WGでは情報の行き違いなどから作業が遅れ気味であったが、 α ドラフトの第一案が間もなく完成予定と報告された。

呼吸器WGでは昨年、日本呼吸器学会としてICD-11の検討委員会を立ち上げ、学会としての原案を作成し、国際WGの対応を待っているところである。

内分泌WGではドラフト案をメンバー内で検討しているところで、基本的な構

造はICD-10に準拠する予定である。また、糖尿病分野をカバーする議長とマネージングエディタの人選を行う予定である。

血液WGでは、日欧米の各学会（JSH: Japan Society of Hepatology、ASH: American Society of Hepatolog、EHA: European Hepatology Association）で承認されたドラフトをWHOに送付したが、iCAT上では反映されておらず、その代わりにRare Disease TAGの作成したドラフトがiCAT上に反映されていることが判明した。今後、Rare Disease TAGとのαドラフトの作成手順や重複領域などの調整が必要と考えられる。

循環器WGでは、国内WGを組織して構造変更の提案に着手するところである。国内WGによって構造変更のドラフトが出来次第、国際WGに諮るというスケジュールでのαドラフトを作成予定と報告された。

リウマチWGでは2010年6月に対面会議を開催し、αドラフトの内容について討議した。その結果をWHOに送付し、iCATに反映済みである。なお、米国リウマチ学会をはじめ世界各国の主要学会の協力のもとにαドラフトを作成したが、今後の協力体制についてはWHOや学会のさらなるサポートが必要で、この件については早急にWHOとの調整が必要と報告された。

④HIM-TAGについて

HIM-TAG (Health Informatics and Modeling TAG)の現状について中谷ICD専門委員より報告が行われた。

中谷委員によれば、HIM-TAGは医療情報及びその情報のモデルを扱うが、具体的には5つの小委員会がそれぞれ活動を行っていると言われている。

2) 第2回国内内科TAG検討会

平成23年3月7日に実施された検討会の内容は以下の通りである。

①WHO内科TAGの各WGの進捗報告について

WHO内科TAGとして、2011年2月末をαドラフトの締め切りとした。その結果、ほぼ全てのWGからαドラフトあるいはそのたたき台が提出された。また、消化器WG、肝・胆・膵WG、リウマチWGではiCATへの入力も完了しており、血液WG及び腎臓WGでもiCATへの入力が着実に進んでいると報告された。

一方、循環器WG、内分泌WG、呼吸器WGではαドラフト作成が遅れていることから、今後αドラフトの完成とiCATへの入力を迅速に実施する必要と認識された。

②2011年4月のWHO内科TAG対面会議（2011年4月18～19日、於東京）について

2011年4月18、19日に東京でWHO内科TAG対面会議が予定されている。そのアジェンダや参加予定者等について説明があった。

2. 第1回国内腫瘍TAG検討会における議論

国内腫瘍TAG検討会が昨年度立ち上げられ、今年度の第一回の検討会が2010年11月24日に実施された。その内容は以下の通りである。

①国内腫瘍TAG検討会の設置について

厚生労働省国際分類情報管理室より、国内腫瘍TAG検討会の設置の経緯について説明がなされた。

ICD改訂にあたり、第II章悪性新生物の担当委員をがん治療学会から推薦することとなり、これを検討するための検討会（国内腫瘍TAG検討会）を設置すること、および本検討会は、厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業（主任研究者 奈良県立医科大学 今村知明教授）の研究活動の一環として設置されることが報告された。

②ICD改訂の動向について

厚生労働省国際分類情報管理室より、ICD改訂の動向について説明がなされた。

国際および国内の体制整備の状況、ICD-11への改訂に向けた動向等が説明されるとともに、今後のスケジュールとして、2010年にαドラフトが公開、2011年にはαドラフトの完成とβドラフトへの移行となり、2015年以降に各国で順次導入される予定であることが報告された。

また、各TAGの作業進捗状況については、αドラフトの完成度は10%程度で、今後精力的に作業をする必要があること、項目が整理されていないものが多く残っているため今後さらに分類の構造が変更されていく可能性があることが報告された。

さらにWHO腫瘍TAGと同様な分野横断型のTAGとして、死因分類のMortality TAG、疾病分類のMorbidity TAG、生活機能分類のFunctioning TAG、医療の質と安全のQuality and Safety TAGが新たに設置された、あるいはされる予定と報告された。

③WHO 腫瘍 TAG 会議の報告及び今後の活動について

西本委員より、WHO 腫瘍 TAG の第1回対面会議の報告がなされた。

ICD 改訂作業における分類学の専門家

の関わり方、腫瘍 TAG で作成する疾病分類を ICD-O-3 と IARC によって最近出版されたいわゆる Bluebook と呼ばれる WHO 独自の分類を基に構築していくこと、WHO 腫瘍 TAG メンバーの出身国構成などについて議論があったことが報告された。また、WHO 腫瘍 TAG は分野横断的に疾病分類を構築する必要があるが、国内腫瘍TAG検討会としては国内意見の取りまとめを行う方針であることを確認した。

④国内腫瘍TAG検討会の今後の活動について

今後の活動方針について、各委員から意見があった。

血液腫瘍の項についての内科TAG Hematology WGとの調整、各学会での情報提供窓口の設置など今後の方針について議論がなされた。

3. 国際会議への出席

①WHO内科TAG対面会議

今年度のWHO内科TAG対面会議は、東京にて2010年4月7日～8日に開催された。本研究班として、当該会議に出席してICD-11改訂動向を把握し、収集された情報を元に分析を実施した。分析の結果として、ICD分類をわが国で実際に活用することを念頭においた議論が重要と考えられた。

②WHO腫瘍TAG国際対面会議

2010年9月13日～14日に第1回WHO腫瘍TAG対面会議が開催された。わが国の腫瘍分野での疾病分類にはICD-10とICD-O-3が採用されているが、ICD-11への改訂による各方面への影響を考慮しなければならないと考えられた。

③iCAMP2

2010年9月27日～10月1日にWHO本部においてiCAMP2が開催された。iCAMP2においては、iCATのプラットフォームの作業進捗が発表され、今後も機能が追加、改善されていく予定と報告された。

④WHO改訂運営委員会 (RSG)

iCAMP2と同日程でWHO改訂運営委員会(RSG)が開催された。本委員会において α ドラフトの暫定版が発表されたが完成度は10%程度であり、2011年5月の α ドラフト完成に向けてわが国としても引き続き作業や調整を行う必要があることを確認した。

⑤WHO内科TAGマネージングエディタ対面会議

2010年12月8日～9日の日程で、WHO内科TAGマネージングエディタ対面会議が東京で開催された。この会議は、Julie Rust氏の内科TAGのマネージングエディタ復帰と、新たにMegan Cumerlato氏の内科TAGマネージングエディタ就任に伴い、各WGの作業の進捗確認と α ドラフト作成に関する様々な討議を目的として開催された。

本対面会議において α ドラフト作成が遅れていた内分泌WG、循環器WG、呼吸器WGを中心に各WGの現状や問題点などを抽出し、その解決策について討議した。また、内科TAGとして α ドラフトの締め切りを2011年2月末に設定することを全WGと確認した。

4. 電話会議

①第一回電話会議(2010年9月15日開催)

WHO内科TAGマネージングエディタ

であるRust氏の脱退により新たなマネージングエディタを補充する必要があること、資金不足の解決方法、WG間の重複領域の対処方法などについて議論された。

各WGの作業進捗状況は、リウマチ、消化器、血液、腎臓WGではほぼ α ドラフトへの最終案を提出できるまで作業が進んでいる。しかし、循環器、内分泌WGなどでは依然として作業中であり、遅いところでは資金不足から、まだWGが形成されていないなど、作業のペースを上げる必要があることが示された。また、菅野部会長からはTAG間でも作業の進捗に大幅な違いがあるという懸念が出された。

②第二回電話会議(2010年9月24日開催)

Rust氏のWHO内科TAGマネージングエディタとしての復帰の見込みが付き、さらにRust氏の補助としてCumerlato氏をリクルートする方向で、資金の調整を始めることとなった。

また重複領域に関して、Morbidty TAGと内科TAGとの間で調整が必要なが示された。

③第三回電話会議(2011年1月17日開催)

各WGの作業進捗状況が報告された。内分泌WGでは、共同議長に田嶋名誉教授が指名され、糖尿病分野を担当することになった。肝・胆・膵WGでは、改訂案がiCATに数日中に反映されるとのことであった。消化器WGでは改訂案がほぼ完成しており、WHOからのフィードバックをもとに、Rust氏とCumerlato氏で今後見直し作業に入る予定と報告された。循環器WGでは、興梠国際WG協力員が日本の関連学会からの改訂案をとりまとめる予定と報告された。リウマチWGではMusculoskeletal

TAGとの重複領域の問題解消のために、臓器・組織別にコードの割り振りを行い、それがほぼ完了したと報告された。また、改訂案の内容は日本呼吸器学会で承認されたため、順次WGメンバーに回覧される予定とのことである。血液WGでは改訂案が完成間近であるが、腫瘍TAG、IARC、Rare Disease TAGとの重複領域の処理、WHOによるメンバー承認、マネージングエディタのための資金調達の調整をしているところであった。腎臓WGでは重複領域の検討とマネージングエディタ選出の調整中であった。

2011年4月11日～14日にジュネーブにて開催予定のWHO改訂運営委員会(RSG)については、全TAG、全WGの議長を招聘することにより、全員に改訂の全体像を把握してもらうことが必要と菅野部会長から意見が出された。なお、会議参加のための旅費の負担など、今後討議すべきな項目についても、確認された。

2011年4月18日～19日に東京で開催予定のWHO内科TAG対面会議については、全WGの議長・共同議長とマネージングエディタを招聘し、 α ドラフトの最終調整を行うとした。

④ 第四回電話会議 (2011年2月21日開催)

本電話会議に参加した肝・胆・膵WG、内分泌WG、リウマチWGの議長および内科TAGマネージングエディタから、 α ドラフト作成の現状について報告がなされた。

肝・胆・膵WG及び消化器WGでは、 α ドラフト作成は完了し、現在iCATへの入力中と報告された。循環器WGについては、国内の各学会の協力でドラフト案を作成しており、3月末を目処に完成する予定と

報告された。内分泌WGでは田嶋名誉教授が共同議長として承認され、糖尿病分野の α ドラフトが完成したと報告されたほか、その他の領域も間もなく完成と報告された。リウマチWGは、 α ドラフト作成は完了し、iCATへの入力も完了したと報告された。呼吸器WGでは、現在の α ドラフトのiCATへの入力開始されたが、議長のDr. Ingbarはドラフトの修正を予定しており、その結果待ちと報告された。

⑤ 第五回電話会議 (2011年2月22日開催)

本電話会議に参加した腎臓WG、血液WG、内分泌WGの議長および内科TAGマネージングエディタから、 α ドラフト作成の現状について報告がなされた。

血液WGでは、 α ドラフトは完成しており、iCATへの入力は4月までに実施予定と報告された。また、ICD-OやRare Disease TAGとの重複領域との討議等も実施中であると報告された。内分泌WGからは、腎臓WGや皮膚科TAGとの重複領域の話し合いが重要と示唆された。腎臓WGでは、 α ドラフトは完成し、iCATに入力中と報告された。

5. α ドラフト作成支援

今年度の成果物である α ドラフト(構造変更の提案)を、本研究班が中心となって国内の意見を取りまとめ、WHO内科TAGの各WGにおける α ドラフト作成を支援した。さらに、WHO内科TAGのマネージングエディタであるRust氏とCumerlato氏の協力のもと、iCATへの入力を支援した。詳しくは、本報告書1-15ページの小川報告を参照されたい。

6. ICD改訂に向けた今年度の成果

国内内科TAG検討会、国内腫瘍TAG検

討会の開催及び関連国際会議の出席などを踏まえ、今年度の進捗状況及び研究成果をまとめると以下の通りとなる。

平成 22 年度は、WHO 内科 TAG 対面会議において、各 WG の α ドラフト作成のために国内の関連学会の意見を集約し、その完成に大きく寄与した。また、各 WG 間の重複・欠損領域について考察を実施し、作業進捗状況や今後の調整、情報交換などを実施した。さらに、WHO 内科 TAG 対面会議や RSG 会議への参加を通じ、ICD 改訂の基本コンセプトや改訂スケジュールなどについて情報収集を行い、今後の具体的なスケジュールを委員間で共有し、WHO の改訂に向けた動向を把握しつつ、改訂のための分類枠組みについて検討した。さらに、これらの情報を学会などで発信した。

2010 年 9 月には第 1 回 WHO 腫瘍 TAG 対面会議が開催された。国内腫瘍 TAG 検討会から委員が参加し、その内容を国内腫瘍 TAG 検討にて報告した。わが国で採用されている腫瘍分野の疾病分類との整合性が重要であることを確認した。

また 2010 年 9 月末に開催された iCAMP2 においては、内科 TAG 検討会メンバーが参加すると共に、iCAT の機能追加や入力状況について動向を把握し、委員間で共有したほか、HIM-TAG や新たに設置された分野横断 TAG についても情報を共有した。

これらの各種国際会議や電話会議への参加を通じ、国内内科 TAG 検討会と国内腫瘍 TAG 検討会の双方において、2011 年 5 月の α ドラフト完成に向けてのスケジュールや公表後の作業について共通認識を得ることとした。

D. 考察

今年度の本研究では、昨年度に組織した国内内科 TAG 検討会、国内腫瘍 TAG 検討会を引き続き運営し、国内意見の集約や、WHO の改訂に向けた最新の動向の共有を行ってきた。さらに、国際会議にも研究分担者らが積極的に参加し、改訂に向けた各国の最新状況を把握しつつ、わが国としての方針や提案を伝え、大きな成果を上げてきた。特に、 α ドラフトの作成に当たっては、当研究班はわが国の意見を取りまとめたのみならず、WHO 内科 TAG に対して積極的に意見発信を行い、その進捗に大きく貢献した。

これらの活動に加え、改訂に向けたスケジュール管理を実施し、WHO や WHO 内科 TAG メンバーとの電話会議を開催し、その進捗管理の支援を行うなど、WHO 内科 TAG の作業進捗のまさに中心として機能したことは特筆すべきであろう。

このように国内の意見集約を行い、各種国際会議へ出席して議論をリードしたことや、スケジュール管理支援を行ってきたことは、今後の ICD 改訂や日本のプレゼンス向上に関して重要な意義を持つものである。

以上のように、今年度は対外情報発信の実施や ICD 改訂案の提言、関係者間での情報共有を踏まえた進捗管理等を行い、平成 22 年度の目標は概ね達成できたと考えられる。

さらに、2011 年 4 月 18 日～19 日に、東京で WHO 内科 TAG 対面会議の開催が予定されており、本研究の平成 22 年度の成果および進捗状況は当該会議で世界に向けて発信される予定である。特に、内科分野の各 WG で構築された α ドラフトについて総合的な討議を行ったうえで、本年 5 月に開始される予定の β フェーズ

における活動について討議される予定である。具体的には、コンテンツの入力について、その具体的な方法や入力内容の検討が行われる予定で、さらに iCAT 等改訂に使用する具体的なツールに関する情報共有を行うこと等が行われる予定である。当該会議には、ICD 改訂に関与する内科領域の全世界のメンバーが集結するため、議論を集約し今後の活動方針、スケジュール等を確認し、内科領域の ICD 改訂に関する世界の動向をリードすることは日本の今後の ICD 改訂への関与という観点から、非常に大きな成果となる。

一方、今年度の課題は、各 WG からの α ドラフト、すなわち構造変更の提案が固まってきたために、より具体的な内容の検討が必要になったことである。作業が進むにつれ、他 TAG、他 WG との重複・欠損領域の処理、わが国で採用されている ICD-10 や ICD-O-3 等を含む各種の疾病分類との整合といった問題が顕著になり、国内外での調整がさらに必要である。

このような状況であるが、依然として改訂スケジュールに対する作業進捗は遅れ気味であり、資金不足や手続きの遅れから WHO 内科 TAG の各 WG メンバーから様々な意見や不満が寄せられているのが現状である。

また、今年度発生した新たな課題は、WHO との調整である。昨年度と比較して改訂案の内容の検討がより具体的に進み、いくつかのグループでは α ドラフトを WHO に提出したが、WHO とマネージングエディタとの調整不足により、iCAT に改訂案が完全に反映されないといった問題が発生した。2011 年 5 月の α ドラフト完成と β フェーズの開始に向け、よりいっそう綿密な WHO や各 WG メンバー、国内での検討メンバーとの間での情報共

有や進捗管理が必要になってきたといえよう。今後も関係者間のコミュニケーションを緊密にし、進捗管理を行っていくことが必要と考えられる。

E. 結論

今年度は、国内内科 TAG 検討会および国内腫瘍 TAG 検討会を開催して委員間で様々な議論を行うとともに iCAT の開発状況など、ICD 改訂に向けた WHO の最新動向を共有した。また、WHO-FIC 等の国際会議に研究分担者らが出席し、改訂に向けた各国の最新状況を把握する中で、日本から積極的に提案を行い、大きな成果を上げた。

昨年度に引き続き、国内での検討体制の確立や最新情報の共有、ICD 改訂における日本の国際的なプレゼンス向上については概ね目標を達成したといえるが、改訂に向けたスケジュールについては必ずしも順調に進んでいるとはいえず、2011 年 5 月の α ドラフトの完成と β フェーズへの移行、2015 年からの ICD-11 の利用開始というスケジュールに向けた進捗管理に課題を残した。ICD-11 の改訂に向けて、さらなる議論および緻密なスケジュール管理が必要である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

柏井聡、飯野靖彦、興梠貴英、及川恵美子. ICD-11 (国際疾病分類第11版) α 原稿起草のための研修会 (ICD-11 α Draft Training Meeting) 参加報告. 厚生省の指

標 2010 ; 59 (2)

佐野友美、小川俊夫、八巻心太郎、菅野健太郎、今村知明. 国際疾病分類ICD-11改訂の進捗状況-ICD-11 α ドラフト公開に向けて-. 医療情報学 30 (Suppl.) : 1050-1053, 2010

2. 学会発表

飯野靖彦. 教育講演 “腎臓病名の改革—新たなICD-11分類”. 第53回日本腎臓病学会学術総会 2010年6月16-18日 神戸国際会議場

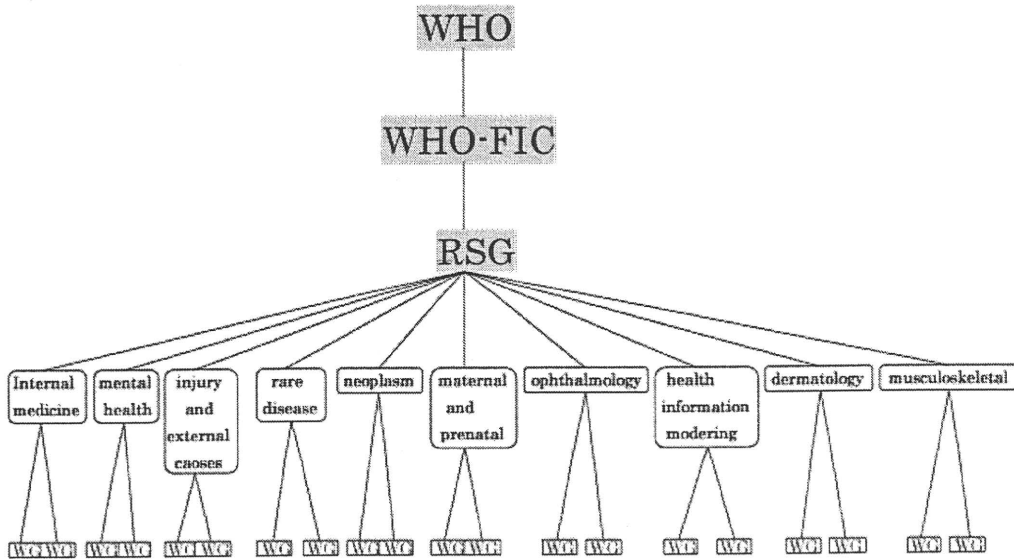
佐野友美、小川俊夫、今村知明. ICD-11改訂作業における重複領域に関する一考

察. 第69回日本公衆衛生学会総会 2010年10月27-29日 東京国際フォーラム

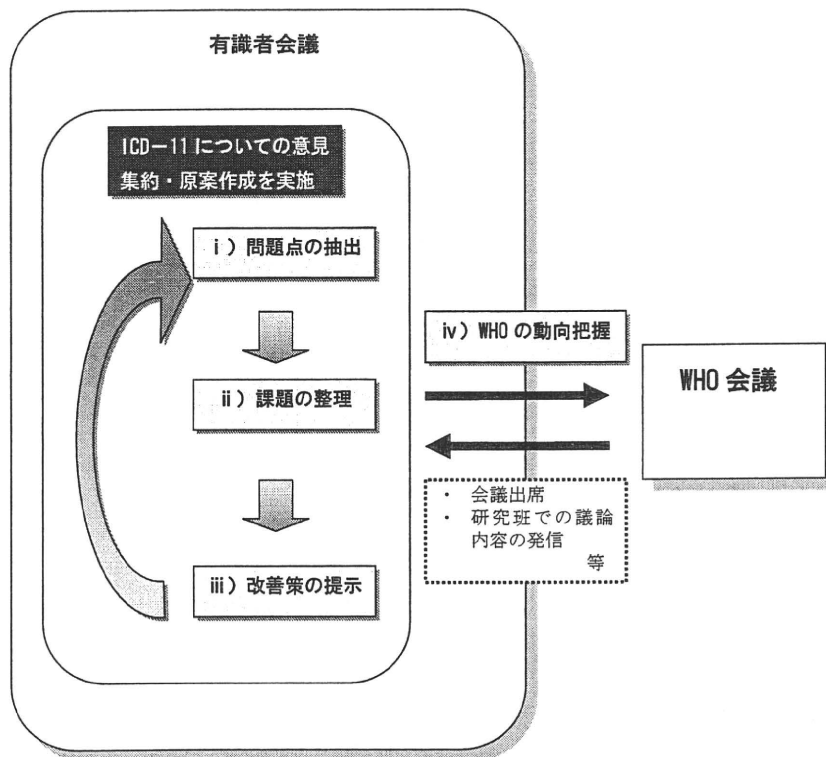
佐野友美、小川俊夫、八巻心太郎、菅野健太郎、今村知明. 国際疾病分類ICD-11改訂の進捗状況-ICD-11 α ドラフト公開に向けて-. 第30回医療情報連合大会(第11回日本医療情報学会学術大会) 2010年11月19-21日 アクトシティ浜松

H. 知的財産権の出願・登録状況なし。

図表 1 ICD-11改訂プロセスの構造

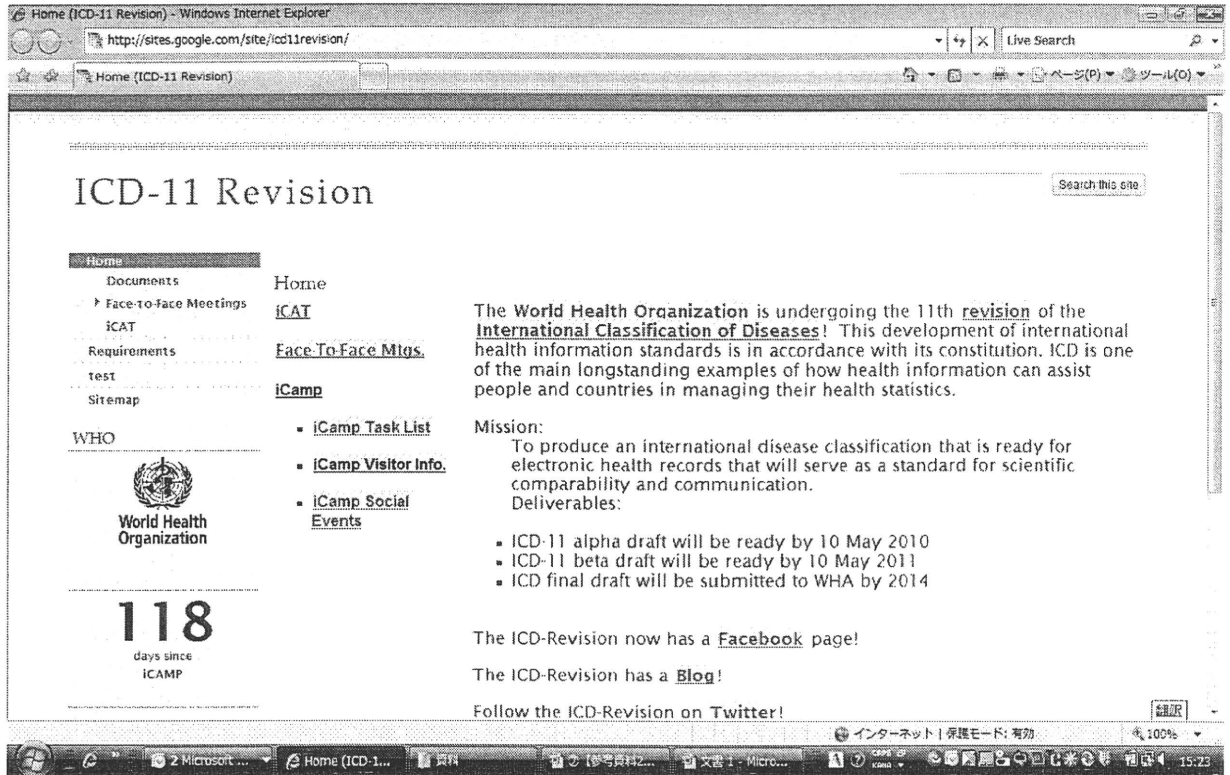


図表 2 研究スキーム

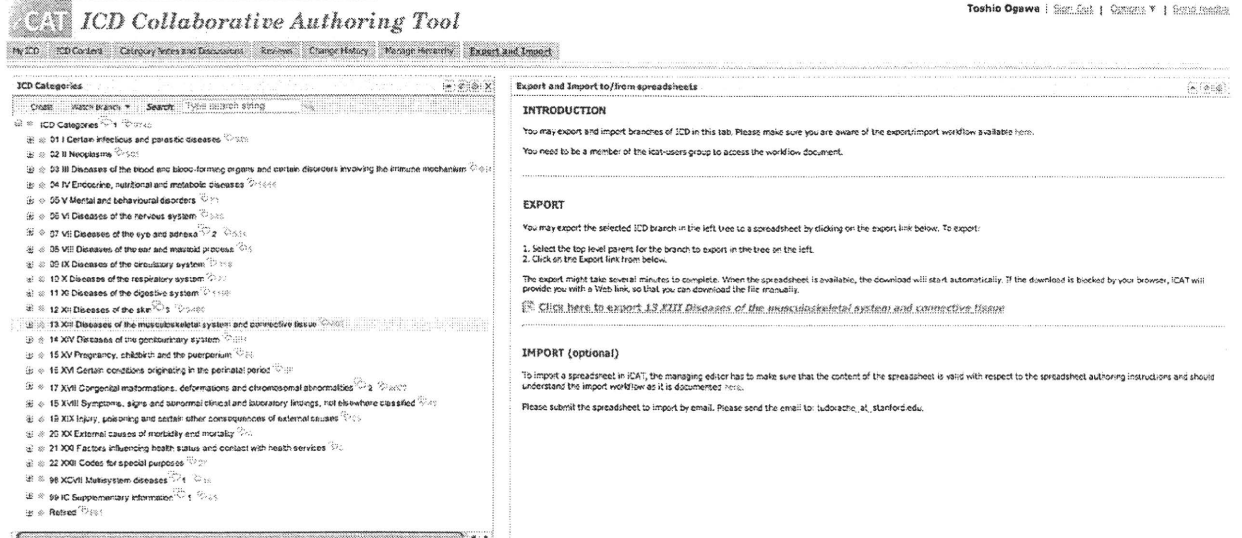


図表 3 iCAT

<http://sites.google.com/site/icd11revision/>



<http://icatdemo.stanford.edu/>



厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）
研究分担報告書

ICD改訂作業における構造変更の提案（ α ドラフト）の作成に関する研究

分担研究者 小川 俊夫（奈良県立医科大学健康政策医学講座 助教）

研究要旨

本研究では、ICD-11 改訂作業における構造変更の提案、すなわち α ドラフトについて、内科領域における作成状況を概観したうえで、内科領域の議長国としてのわが国の貢献について考察を行うことを目的として実施した。

ICD 改訂作業は α と β の二つのフェーズによって実施されており、 α フェーズでは構造変更の提案とコンテンツ入力開始、 β フェーズではコンテンツの入力と一般への試験公開が予定されている。内科分野においては、 α フェーズにおいて作業部会（ワーキンググループ：WG）が組織され、各WGによって α ドラフトが作成されたが、WGの組織づくりやWHOによる承認の遅れ等により、作業の開始が遅れたWGも見られた。しかしながら、本研究班と国内の各専門学会のご協力などにより、 α ドラフトは完成しつつあり、さらに完成した α ドラフトのiCATへの入力も行われている。

2011年5月からの β フェーズでは、より一層の改訂作業の実施体制及び各TAG間、WG間の協力体制の整備が必要と考えられる。

ICD改訂作業は、2007年よりスタートし、わが国は内科分野の議長国を努めるなど、重要な役割を有している。本研究班は、ICD-11をわが国としてより適切なものとするべく、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめ、WHOへのわが国の対応に資する基礎資料を作成することを目的として平成20年度に発足し、目覚ましい成果を上げて来た。

本稿では、ICD改訂作業における α ドラフト作成における内科分野の各作業部会（ワーキンググループ：WG）の活動を概観したうえで、本研究班の成果について取りまとめる。なお、成果物としての

内科分野の各WGの α ドラフト（案）は、資料として巻末に添付する。

A. 研究目的

ICD改訂作業においては、WHOによって α と β と呼ばれる二つのフェーズが定められている。 α フェーズでは、新たな分類の構造が分野別専門部会（TAG）ごとに議論され、構造変更の提案が作成されることになった。この構造変更の提案は α ドラフトと呼ばれ、ICD改訂作業のプラットフォームであるiCATに入力され、各専門部会のメンバー間で共有される。さらに、複数の領域に関与する疾病

はオーバーラップ(重複領域)と呼ばれ、該当する専門部会間でその分類について討議され、構造変更が決定される。αフェーズでは、この構造変更の提案と同時に、疾病の定義などコンテンツモデルの一部の基本項目についても作成し、iCATへの入力为目标とされており、2011年5月までがαフェーズとされた。

βフェーズは2011年5月のαフェーズ終了を受けて開始される予定で、βフェーズではαフェーズで構築された構造変更、コンテンツモデルの入力が実施される予定である。また、βフェーズにおいてはICDの改訂内容が一般に試験公開され、専門部会の委員以外の一般からの意見も取り入れたうえで、ICD-11として完成される予定である。

内科分野においては、その対象が広範囲であることから、作業の効率化のために、循環器、内分泌、消化器、血液、肝・胆・膵、腎臓、呼吸器、リウマチの8分野のWGが組織され、WGごとに構造変更の提案、コンテンツモデルへの入力などが実施されることとなった。

本研究は、内科分野の各WGにおけるαドラフトの作成状況について概観すると同時に、αドラフト作成における本研究班の活動について取りまとめることを目的として実施する。

B. 研究方法

内科分野においては、ICD改訂作業は循環器、内分泌、消化器、血液、肝・胆・膵、腎臓、呼吸器、リウマチの8つのWGごとに実施されている。本研究では、2011年2月末時点でのWGごとにαドラフト作成の進捗についてとりまとめると同時に、その経緯と本研究班の活動についても言及する。

(倫理面への配慮)

本研究においては、疾病分類の分析・検討が研究主体となるため、倫理面への配慮が必要となる事項はない。

C. 研究結果

(1) WGの組織形成

内科TAGの各WGでは、まず議長が選出され、議長によってWGメンバーが選出された。選出された議長及びWGメンバーはWHOから正式に承認され、ICD改訂作業に従事することになるが、このWGメンバーの選出においては、WHOの6地域(WHO regions)全てからメンバーを選出すること、男女比を考慮すること、小児科医を一人入れること、またマネージングエディタと呼ばれる構造提案の編集等を中心的に行うメンバーを選出することがWHOより求められた。そのため、一部のWGではメンバー選出・承認にかなり時間を要する結果となり、改訂作業の遅れの要因の一つになったと考えられる。

例えば、血液WGにおいては、日本、米国、欧州の主要学会からメンバーの選出を行った結果、WHOが想定していた数よりも多くなったことや、当初はWHOの全地域からの選出という条件が満たされていないため承認に時間がかかり、そのため全体の作業スケジュールに影響が出た結果となった。なお、血液WGにおいてはWHOと折衝を重ねた結果、WGメンバー数については現状のままで良く、さらにWHOの各地域からの選出を実現するために追加メンバーを選出し、最終的にWHOから全メンバーの承認を受けることができた。

(2) iCATの構築とマネージングエディタの役割

ICD改訂作業のプラットフォームとし